

さいかい

2015.8
vol. 98
Summer



神戸で開催された第49回日本作業療法学会より 長崎原爆病院 坂井さん



地域発！作業療法士 なごみの杜 本多さん

Contents

平成27年度 定期総会報告.....	P 1
地域包括ケア対策部の設置について.....	P 2
地域発！作業療法士.....	P 5
お母さんOTへのエール.....	P 7
作業療法の日関連イベント（南島原さくらまつり）報告.....	P 8
第22回長崎県作業療法学会を終えて ～つながった作業療法～.....	P 9
長崎県作業療法士会広報誌「西海」100号カウントダウン企画 「よくわからない」から「誰でも知ってる」へ！.....	P 10
日本作業療法学会 in 神戸レポート	P 11
軟式野球チーム「長崎OT9ers」報告.....	P 12
新人紹介.....	P 13



（一社）長崎県作業療法士会

平成27年度 定時総会開催される



写真は今年度、県北開催の県学会長 日南さんによる挨拶の様子です。

2015年6月28日、「平成27年度一般社団法人長崎県作業療法士会定時総会」が開催されました。総会では、報告事項のほか、平成27年度年度事業計画及び予算案について、会長および理事より説明され、質疑応答がありました。決議事項に関しましては、原案どおり承認可決されました。

さて、今年度の士会活動における重点課題は、地域包括ケアシステムに対応する士会活動の展開です。すでに前線で活動されている部長・班長のもと「地域包括ケア対策部」を新設し、人材育成・情報共有などを行うものとなっています。当日開

催された研修会では、長崎県の地域リハに関する最新動向をふまえ、私たちの地域包括ケアへの関わり方や、県士会が展開していく活動に詳しい解説や提言がなされました。今後、分野にかかわらず、多くのOTが生活行為向上マネジメントを習得・実践し、様々な地域活動にかかわっていく必要性を感じる内容でした。今回の定時総会と研修会は、それぞれが何をしていくべきか考えさせる機会になったのではないのでしょうか。



研修会では沖会長と淡野部長による講義がありました。

※研修会の様子を撮影したビデオを、長崎県作業療法士会ホームページにある「会員専用ページ」の最下段にある「コンテンツ」に掲載しています。出席できなかった方は、こちらをご覧ください。

地域包括ケア対策部

の設置について

地域包括ケア対策部部長

長崎リハビリテーション病院 淡野 義長

平成27年度県士会総会において、「地域包括ケア対策部」の設置が承認されました。この必要性和重要性は一部の方以外では実感がないかもしれません。特に20代中盤くらいまでの会員には何が言いたいのかよくわからないということが正直なところでしょう。

就職してからの数年は、目の業務と患者・家族への対応だけでもままならない状況なので、その背景まではとても考えが及ばないという経験は誰しも通ってきたところです。患者さんが退院し、外来・通所・訪問などを通して継続的に関わっていくと、人が生活する背景が見えてきて、その暮らしをどのように構築していこうか、どのように支援していけばその人の望む生活行為が向上していくのであろうかなどと、院内や施設内だけでは収まりがつかないことが理解できてきます。そうすると視野が広がり、あとのことを理解しようとするようになり、さかのぼっての入院時の作業療法のバリエーションを広げていくということになります。さらに進むと、そもそも病気にならないように予防が重要という思考になり、それは多くの場合、リハの病院・施設内では対処不可能という現実の中で、外部の事業へ関心が向いていくことになります。

このような思考拡大の流れの中に、社会の構造の変化という要素が加わると「地域包括ケアシステム」の必要性が理解できるのではないのでしょうか。30歳前後の方では、自分の子供の代のこと、さらには孫の代ことは想像に難しくないのでしょうから、その近未来の想像の中で、冷静に思考を巡らせれば、少子高齢化で言われている様々な課題解決のためには、多くの場合がサラリーマンである作業療法士の場合、その所属する組織・団体の理解と協力が不可欠となります。昭和から平成一桁くらいでは目の患者対応に全力を注いでいた感がありますが、現

代ではリハ専門職の必要性がその期待とともに試されてもいます。中でも、今回の介護保険の改訂が表現しているように、実生活や具体的生活行為への結果が求められているということは、まさに作業療法が世間から必要とされているということです。これは業界としてはうれしいことである反面、かなり厳しいことでもあります。作業療法士と称している者が、安定した結果を出さなければならないということでもあるからです。これは世間で高くなるであろう様々な欲求に耐えうるものである必要もあります。これまで以上に業界内部へ向けての教育・研修とともにその求心力が試されます。

地域包括ケア対策部		
部 長	淡野 義長 長崎リハビリテーション病院	
副部長	村木 敏子 貞松病院	
担当理事	黒木 一誠 長崎北病院	

生活行為向上マネジメント班		
班 長	村木 敏子 貞松病院	
副班長	森田まゆみ 長与病院	
担当理事	前園 健之 紅葉病院	片田 美咲 介護老人保健施設 にしきの里

介護予防班		
班 長	福田健一郎 真珠園療養所	
副班長	中村 剛 デイサービスセンター なでしこ荘	
担当理事	永石 博範 介護老人保健施設 フォンテ	中村 和也 長崎記念病院

地域ケア会議班		
班 長	榊原 淳 北松中央病院	
担当理事	山口 勝史 耀光リハビリテーション病院	田中 浩二 長崎大学

認知症初期集中支援班		
班 長	宮川 由香 出口病院	
担当理事	小中原隆史 訪問看護ステーション すみ香	村川 孝幸 西海病院

※各班には各地区担当があり、地区での情報共有や活動のサポートなどを行っていただいています。
※地域包括ケアや生活行為向上マネジメントなどに関する問い合わせは、以下のメールアドレス、または各班に連絡をお願いします。
長崎県作業療法士会事務局 jigyou@nagasaki-ot.com

今年の総会では会員への理解促進と意識付けのために研修会を併催しました。沖会長からは、地域包括ケアの背景、長崎県地域リハの変遷、日本リハ病院施設協会の意向、OT協会の意向県士会としての取り組みと課題についての話がありました。淡野からはこの度の介護保険制度あるリハマネジメントⅡと生活行為向上リハから、社会保障制度が何を求めようとしているか、また地域包括ケアシステムの整備協力が言われている中、県士会におけるこれまでの実勢を踏まえ、生かしながら当面どのような体制で臨むかという話を、担当班長の話を交えて行いました。（この状況は県士会HPの会員ページより視聴可能）これらは容易に理解できるとは考えていなく、繰り返し会員と対話していくことでお互いの糧となるので、引き続き会員の皆さんと意見交換していきたいと思っています。

現実的には、地域包括ケア対策部の中に設置した4つの班（生活行為向上マネジメント・介護予防－総合支援事業・地域ケア会議・認知症初期集中支援）での情報収集と計画から進め、OT協会の重点事項である生活行為向上マネジメント（MTDLP）研修が定着してきているので、その機会を意識した啓発や、研修の機会を慌てない程度に速やかに行っていこうと考えています。ナガサキリハネットが企画する研修への参加促進など、単一の職能団体の動きだけではない取組みも活発になりそうですが、基本的にはOTという職能団体が、自分たちの足元をしっかりと固めていくということが必要になります。そのためにもわかりやすい形を提示し、意識的・意図的に取り組んでいく必要があります。その第一歩が担当部署の設置でしょう。今後は部会内の班の動きを、各地区の実情にあった形で少しずつも確実に進めていく必要があります。加えて、OT協会の協会誌は十分に目を通し続けてください。OT協会も意図して協会誌に情報を掲載しています。これら近々の事象を含めて会員の皆さん個々人が国家資格の職能者として自覚を新たにするときでしょう。OT協会の動きは知らないでは済まないですし、恥ずかしいですよ。今回の介護報酬改定の関係ではOTはある意味注目されていますので、周り

の方々もいろいろと調べてけっこう知っています。

このように課題は多いですが、国民に選ばれる作業療法でありたいという気持ちと、その作業療法の提供者（作業療法士）集団でありたいという気持ちは会員誰しも同じです。どうぞ会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

MTDLP班 班長

貞松病院 村木 敏子

日本作業療法士協会は平成20年度より国の要請もあり、新たな自立支援型医療の具現的なアプローチへの期待を受け、生活行為向上マネジメントの研究開発に取り組みました。そして平成27年4月の介護保険改定において、生活行為向上リハビリテーションが制定され、生活行為向上マネジメントの手法そのものが制度化されました。生活を見ることが出来るOTに国は大きな期待をしています。この流れがOTにとって追い風となるか、逆風となるかはここ数年の私たちの頑張り次第です。もはや生活行為向上を知らない、できないでは通らない事態です。

今年度、県士会としては地域包括ケアに向けた人材育成の一つとして、生活行為向上マネジメント基礎研修を県央・県南地区、佐世保地区、長崎地区で開催し、2月の事例検討会を計画しています。そして協会の事例登録につなげて国にOTができることを示していきたいと思っています。

数年後、すべてのOTが生活行為向上マネジメントを実践しているために、一人でも多くの方が研修会に参加されますようよろしくお願いします。



介護予防班 班長

真珠園療養所 福田健一郎

地域包括ケア対策部が立ち上がりました。「地域包括ケア」って抽象的な表現ですね。簡単に言うと「認知症を含む高齢者への介護・介護予防の充実」です。(なんで高齢者介護と言わず「地域包括ケア」なんだろう？と思われると思います。個人的には米国の制度のように将来、障害者もひっくるめて「社会的弱者」で括るためだろうと思っています。)

この部の中に「介護予防班」があります。介護保険下で平成18年から介護予防は始まりましたが、今年から“強化”されることになりました。「リハ職に強力に協力してもらう」とあります。10年後、人口の多い「団塊の世代」が後期高齢者となり、後期高齢者がどっと増えるため、「財源を圧迫しないように高齢者には介護予防に努めていただく。」というのが厚生労働省の趣旨です。



写真は平成27年5月10日に開催された認知症予防研修会（入門編）の様子です。

介護予防に関して市町から協力依頼が増えると予想されますので、従事のほどよろしくお願いいたします。おそらくは介護予防や認知症予防に関する講話等の依頼です。そのためには介護予防に関する知識を身につけておく必要があります。研修会が随時開かれますので、ご参加いただき、まずは知識をつけていただくようお願いいたします。

今後このような地域の仕事はますます増えていきます。職場のみに止まらず、作業療法の発展のため、地域に活動の場を広げていきましょ

う。地域の仕事は楽しいですよ。

地域ケア会議班 班長

北松中央病院 榎原 淳

班長を仰せ付けられました北松中央病院の榎原です。2年前から佐々町の地域ケア会議に参加させていただいた経験があり受けさせていただくことにしました。よろしくお願いします。

さて、地域ケア会議は、これから各市町村、地域包括支援センターの主催で始まる事業です。「地域ケア会議」には、地域の体制作りを目的とした「地域ケア会議」と、実際にサービス等を受けておられる方々の検討を行う「地域ケア（個別）会議」の2つがあります。

厚労省の平成25年度地域ケア会議に係る実務者研修資料として、資料と演習用DVD（YouTube動画）がアップロードされていますので、参考にしてください。

長崎県内では、これから展開されていく事業ですので、当班では①会議参加者の把握、②会議の運営状況等の情報収集、③参加するOTのスキルアップにつながる研修会、勉強会の検討、開催を行っていきます。

つきましては、各地区で地域ケア会議に関わるようになった方は、地区担当の県士会理事、もしくは当班にお知らせいただき、情報交換等ができればと思います。ご協力のほどよろしくお願いいたします。



写真は佐々町開催の地域ケア会議の様子です。

地域発！作業療法士

こどもたちの“いきいきとした”
人生を応援します！



“遊び”の中で様々な感覚体験や
課題をこどもの発達段階に応じて
提供・支援します。



触覚



今回は、長崎市内の児童発達支援施設で活躍されている

NPO法人 なごみの杜 本多麻梨奈

—NPO法人なごみの杜ってどんなところ？

NPO法人なごみの杜は「子どもたちの“いきいきとした”人生の応援」を目的に、発達のアンバランスさや様々な生きづらさを感じているお子さんとそのご家族に対して、支援を行っています。

①子どもさんの特性に対する発達支援【個性】

②抱えている課題の調整【課題】

③置かれている環境へのアプローチ【環境】

の3つの視点から様々な活動や支援を提供しています。「個性」「課題」「環境」の3つの歯車がうまく噛み合っただけでスムーズに回っていくことで、子どもは幸せに、いきいきと暮らしていくことができます。

サービスの形態としては、就学前の子ども達を対象とした「ポパイクラス(児童発達支援)」と就学後の子ども達を対象とした「スーパーマンクラス(放課後等デイサービス)」を実施しています。

感覚統合理論(※)の考えに基づき、“遊び”をメインに子どもたちの発達を応援しています。なごみの杜のプレイルームにはダイナミックな遊具がたくさんあり、そこで体を思いっきり動かしたり、サーキットへの挑戦を促します。子どもの能動性やモチベーションを大切に、運動面や社会性、コミュニケーション能力など、その子の発達段階を把握し、その段階に応じた課題を“遊び”の中で提供していきます。子どもたちの「やった！できた！」をたくさん引き出し、成功体験や自信を積み重ねることで、子どもたちが“いきいきと”過ごせるように、という思いで関わっています。

その他に、保護者支援や啓発事業にも力を入れています。

—なごみの杜への入社を決めたきっかけ

活動を見学した際、施設のアットホームな印象に心を奪われました。プレイルームには手作りの遊具がたくさんあり(本物の漁師さんが編んでくれた漁業用の大きな網、大工さんが作ってくれた壁に取り付けられた渡り梯子、取り外し可能な壁、など……)、それらは全て子どもたちの保護者さんや関係者の方がご好意で提供してくださったものであると後から知りました。そのような、子どもたちを想う温かい気持ちが一度の見学でとても感じられ、また、スタッフの方も素敵で、このように人の温かみがたくさん溢れている場所で子どもたちの成長を応援できたら幸せだなと思い、入社を決めたことを

る本多 OT です。

Regional onset of occupational therapist

覚えています。

加えて、“遊び”を通して子どもたちと関われることや、その中で子どもの能動性やモチベーションを大切にしていることにも、魅力に感じました。

—この2年間で振り返って

働き始めた当初は、右も左も分からない状態で、日々、目の前の子どもたちと関わることで精一杯でした。勉強会などに参加し、新しい知識を得て、実践に移せるよう活動を工夫したり……と、とにかく手探りながらもがむしゃらに、一生懸命頑張っていました。何をどうしたらいいか分からないことが多く、子どもとの関わりを振り返り落ち込むこともありました。

2年目に入ると、子どもと関わることにはだいぶ慣れ、少し余裕が出てきた分、今度は自分ができないことにばかりが目につくようになりました。「本当にこれでいいのかな?」「もっと子どもたちのためにできることがあるんじゃないか?」など、自分自身との葛藤が多くなりました。特に、子どもとの関わり以外での、保護者さんや学校の先生とのやりとりなど初めて経験することも多くなり、本当に試行錯誤の毎日でした。1年目よりうんと悩んだ時期でした。

しかし、スタッフの方々や家族、友人に支えられ、そして何より子どもたちの素敵な笑顔に励まされ、ここまでの2年間で乗り越えることができました。

この2年間で振り返ってみると、上手くいかなかったことやたくさん悩んだことからこそ、多くのことを学ばせてもらっているなあと感じます。

—今後の抱負

今後とも、子どもたちや保護者の方々の良き理解者、そして支援者として在り続けるために、学ぶ姿勢を忘れないように努力していききたいと思います。

子ども一人一人の個性を大切に、置かれている環境やそこでの課題などを包括的に考えアプローチしていくことで、子どもたちの“いきいきとした”生活を応援していきたいです。

これからも子どもたちと保護者の方々、周囲で支えてくれている人々への感謝の気持ちを忘れず、子どもたちの成長に負けないよう、日々努力精進していききたいと思います。

施設の様子です。

作業療法らしい、手作り感溢れる工夫をしています。

下の網は、漁師さんが編んでくれたものを使用しています。

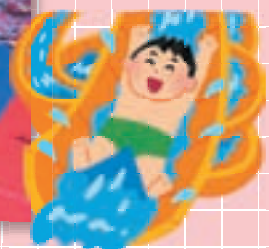


前庭覚 視覚

固有覚



前庭覚



お母さんOTへのエール

佐世保市障がい福祉課 馬場 徳子

「おかあさん、いつもお仕事をがんばってくれてありがとう。」……子どもたちの参観日で、「家族への感謝の気持ちを伝えましょう」…といった課題ではかならずこの言葉が記されています。「直接的に子どもたちに関わる中での母の印象は薄いのかな?」、「母としてこれで大丈夫なのか?」とうれしい中にも複雑な思いが残る瞬間です。これ以上でもなく、これ以下でもなく、子どもたちの目に映る私がそうなんだろうなとシンプルに受け止めなければとは思っています。小2と中2の娘たちの母。仕事は市役所の障がい福祉課での勤務です。

主な業務は福祉用具の申請に関わる用具選定のための調整や精神保健業務における保健所デイケアの担当や就労に関する相談、発達障害に関わる連携や高次脳機能障害支援に関わることなどに加え、日々鳴り響く障害福祉サービス問い合わせの電話や窓口業務などです。

残業や勉強会などで起きている子どもたちと朝のわずかな時間しか会えない日も結構あるものの、ある程度早めからスケジュール調整しておけば参観日などの子どもたちの行事にはある程度参加ができる職場であり、ありがたく思っています。それでも急なスケジュール変更には対応が難しいため、子どもたちの病気にはほとんど休みをとれずにここまでやってきました。我が家では、病気=病後児保育行きで、病気の我が子にせめてもの罪滅ぼしにお気に入りのおやつとDVDをもたせて病院が開くと同時にあ

ずける……それでもなんとかやってこれました。さすがに先日次女に「大人は仕事と子どものどちらが大事なの?」と尋ねられた時には「子どもに決まってる」と、即答しつつもかなりドキッとしたのですが……

この際なので、この原稿を書くにあたって長女に「私が仕事をしていることについてどう思う?」と、聞いてみました。答えは「好きなことしてるんでしょう?……だったらいいんじゃない?毎日仕事に行くのが嫌とか言ってるんだったら嫌だけど、やりたくてやってるように見えるし。」……とのこと。

子は案外親のことを冷静にみてるんだなあと同時に、「こんな不器用な母でも、子どもたちが大人になって仕事をする時に少しでも前向きに考えられる後ろ姿ぐらいなら見せれるかも」なんて思ったりもしています。

「子育てを楽しむ」には程遠く、余裕のない日々ではあるものの、それでも子どもという時間はやはり楽しくて幸せです。100点の母でなくても子どもはそれなりに育つし、その子どもたちに助けられ、それもまた幸せなのだと思います。このバタバタした日々から早く抜け出したいような、ずっと子どもたちのことでバタバタしていたいような……

母でありOTであるみなさん、がんばる母をきっと子どもたちは見守ってくれています。永くは続かないこの大変で素敵な時間を、ぜひぜひ大切にしていきましょう。



作業療法の日 関連イベント開催!!

南島原さくらまつりに参加して

松岡病院 宮崎 光成

私は、2015年4月5日(日)に南島原市口之津町旧第二小学校で開催されたさくらまつりに県士会活動として初めて参加しました。当日はあいにくの空模様で会場を体育館に変更しての開催となりました。しかし体育館の外ではテントを張っての多くの出店や、移動販売でにぎわっており、体育館のステージイベントでは「世界一決定戦 わんこそうめん大会」などが開かれ、多くの方が集まっていました。県士会では去年に引き続き、作業療法啓発活動として、少しでも多くの方に作業療法を知ってもらうことを目的に作業活動を体験して頂きました。去年は感覚統合をテーマに輪投げを行いました。今年ではテーマをコミュニケーションに変えてキャッチ輪投げを行いました。コミュニケーションは我々が仕事をする上でとても重要な能力です。対象者とのラポールを築き、心に寄り添い、気持ちを理解するように努めることが大切になります。また今回はキャッチ輪投げという作業活動を介して関わることで適度な心理的距離の維持、時間と体験の共有、その時の運動や感覚などが言葉を越えたコミュニケーションの基盤となることを目的として行いました。



島原半島では祭りがあるところに OT が出現します。

キャッチ輪投げは目標物を人が持つ棒に変えることで、投げる側と受け取る側が目線を合わせ、二人の息が揃わないと輪は入りません。二人の息が揃った時に輪が入って、お互いに自然と笑顔が生まれ周囲からは称賛と拍手が起こる。うまく入らなかった場合には、「次は棒に通すぞ」と共通の思いが生まれます。キャッチ輪投げの体験中は言語的コミュニケーションのみならず、非言語的コミュニケーションが垣間見えていました。また受け取る側はスタッフだけでなく、兄弟やご家族にも行ってもらうことでより身近に作業療法を体験してもらうことができ

ました。輪を持つのがやっとの乳児からご年配の方まで幅広い年齢層の方が参加しており、目標物までの距離を対象者ごとに変更して行っていました。



今年の体験作業は「キャッチ輪投げ」でした。

体験ブースで呼び込みをしている時には「今年もしているんだね。やっていこうかな。」「去年は1位やったとよ。」など以前参加された方からも多くの声をかけて頂きました。その中で一番印象に残った事は地域のボランティアグループに「一緒にステージで踊ってみたいか」と、お誘いを受けたことです。突然のことでとても驚きましたが、県士会メンバーは緊張しながらも一緒にステージに立つことができ、共に楽しい時間を過ごすことができました。このように声をかけてもらうことで地域の方々との交流を深めることができ、さくら祭りに参加して啓発活動を行ってよかったと思える出来事となりました。

今回の啓発活動が無時終了できたことは前々から準備して下さった桜まつりのスタッフ、地域の方々、県南 OT の皆様のおかげです。そしてそのおかげでより多くの方が作業療法について知ることができたと思います。

作業を通して「その人らしさ」を支える専門職。言葉だけで伝えるのは難しいですが、啓発活動にとどまらず様々なところから発信していき、「作業療法って面白い」と思ってもらうことが、作業療法を知っていただく第一歩につながるのではないかと思います。



スタッフの皆さん、地域のボランティアの方と記念撮影です。

第22回長崎県作業療法学会を終えて ～つながった作業療法～

第22回長崎県作業療法学会 学会長 緒方 剛



去る平成27年3月7日・8日、長崎ウエスレヤン大学において『環』～つなげる・つながる作業療法のテーマのもと、第22回作業療法学会が開催されました。

述べ417名の皆様が足を運んでくださり、盛況のうちに閉会することが出来ました。これも、学会場に足を運んでくださった皆様あってのことと思います。誠にありがとうございました。この文章を5月に書いていますのですでに2か月経過しております。それぞれが年度も変わり、気持ち新たに日々の業務に励まれていることと思います。

今回、つながりを大事にしたいという思いから、テーマを決定させて頂きました。実は、学会長の打診を受けた、地区連絡会議の懇親会の場で一言あいさつを！と言われた際、みなさんの「誰……？」という顔は鮮明に覚えています。（精神分野のOTは2名だけでした……）やはり分野が違うとなかなか顔を合わせる機会がなく、そうになってしまうな。と率直に思いました。ただ、県内の作業療法士が集う学会という場で分野に関係なく、繋がれるきっかけを作りたいと思い、テーマをイメージしました。

実行委員会を発足してからの1年間は本当に言葉の通り怒濤のごとく過ぎていきました。その中の実行委員会の選定において、快く引き受けてくださいました先生方ありがとうございました。持つべきは、頼れる仲間でした。（先輩が多いので仲間は失礼かもしれませんが……）運営に関して、何から手を付けてよいかわからず、様々な方にご迷惑をかけたことと思います。それでも、様々な意見を頂きながら一つ一つ作り上げていく事が出来ました。さすが作業療法士。みなさん対応力がありました。

一般公開講座では葉山靖明様の講演でした。「人生の喜びをつなげる作業療法」。その中で繰り返されていた「意味のある作業」。この言葉は私自身の作業療法について考えることが出来ました。全国各地で公演をされており、非常に濃密な貴重な講演をいただきました。

2日目は地域包括ケアシステムにおける作業療法の役割ということでシンポジウムを行いました。多職種の講師をお招きし、様々な意見が交わされました。まさにテーマであったつながる作業療法の場面だったと思います。これからの作業療法が進む道を明らかにし、考えることが出来ました。

特別企画においては、福祉機器・作業所展示・販売店を企画しました。作業療法士以外の医療・福祉に関係している方と接することができよい機会だったと思います。講演や演題の時間の都合上、不便をかけることも多かったと思いますが、多数来場くださり感謝いたします。各会場に行われた演題発表においても、会場に立ち見の公聴者が出るほどの盛況ぶりでした。演題発表をしてくださった先生お疲れ様でした。

学会を終えて、述べ417名（実人数301名）と目標にはわずかに本当にわずかに届きませんでした（目標は308名以上）が、今回作った作業療法の環を壊してなくさないように、今後の糧にしていこうと思います。これからも、県士会の事業は続いていきます。私自身も積極的に参加して、環を大きく、強くしていきたいです。最後になりましたが、学会運営に協力してくださいました実行委員会の皆様、そして会場に足を運んでくださいましたすべての方にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



第22回のテーマは『環』でした。



葉山さんの伝える「意味のある作業」は私自身を振り返るきっかけになりました。



特別企画では県央地区の作業所の方に参加していただきました。



各セッションでは活発なディスカッションがありました。

「よくわからない」 から 「誰でも知ってる」 へ!



長崎医療技術専門学校 荒木 一博

「さいかい」100号おめでとうございます。

続けていくことは価値を生み出すことだと私は思います。しかしながら何事も継続することは決して楽なことではありません。100号目という大きな節目にあたり、これまで毎号の会報誌発行にご尽力された皆様に心から敬意と感謝の念を表します。そしてこれからも末永く継続されますことを願います。

さて節目といえば既知の通り、作業療法士も国家資格として日本に誕生して今年50年目を迎えました。ちなみに私自身も作業療法士と誕生年が同じなのです(歳がバレますね)。私は第23回の国家試験を受験して作業療法士になったのですが、当時はまだ県内の資格者数は100名にも足らず、医療関係者にさえも作業療法士という名称すら十分に認知されていませんでした。初めて就職した病院は作業療法部門の開設からで、ひとり職場でしたから、なんとか名称や仕事内容を病院内外の対象者やスタッフに認知してもらおうと、新人でろくに仕事はできませんでしたが、必死にもがいていました。思えば、その頃から現在に至るまで、ずっと「作業療法の啓発」というコトバがいつも私の傍らにあります。

県士会活動においても作業療法の啓発活動に深く関わらせていただきました。今は存在しませんが、当時、地域活動部という組織が県士会にありました。地域活動部の目的は作業療法での地域貢献というよりも地域の関係者や対象者に作業療法をPRし、まず作業療法士の存在を知ってもらうことでした。生活に関わる作業療法を手取り早く認知してもらうには自助具が一番わかりやすいだろうとのアイデアで、「自助具キャラバン隊」と

銘打った取り組みを数年続けました。県内の各保健所に地域で生活動作に困っている対象者はいないかアンケートで聞き取り調査を行い、相談があれば地域の保健師と一緒に訪問し、自助具の製作から適合まで行おうという活動です。依頼は年に数件で、訪問した対象者の方にどの程度お役に立てたのか定かではありませんが、その他の活動も含めて作業療法の啓発を考える大変良い経験をさせていただきました。

そして現在とはいうと、養成校という立場で高校生や進学希望者へ作業療法を伝える立場です。作業療法士の名称を知っている方は確実に増えてきましたが、仕事の内容はというと未だ未だと感じています。様々な体験を企画し準備して、仕事の魅力を伝えようと工夫していますが、それはあくまで模擬的なもので、ほんの一部でしかありません。

いつの日か、他の職業と同じように、作業療法士と聞いただけで容易に想像できる正しい職業イメージを持ってもらいたい。そして魅力ある仕事だと思っていただきたい。それはずっと願っていることでもあります。作業療法士の数が増えた今、ひとりひとりがそれぞれの作業療法をみえる形にして発信していけば、数の力で作業療法の存在価値を大きく示せる時代になっています。これからも価値のある仕事であり続けるために、今こそ仕事の成果をみせる啓発を続けていくことが必要だと感じています。

「50にして天命を知る」という孔子の言葉があります。私自身も作業療法の使命を見極めるために、これからも信念を持って取り組んで行こうと思います。

日本作業療法学会 に行ってきました。

管整形外科病院 中山 浩介

——参加のきっかけ

発表予定がなかったため行く予定はなかったが、3年後の県学会運営のお手伝いをする予定になってしまい、学会を運営側の視点で眺めたかったこと。整形外科分野の職場に移り一年満たず、知識・技術の蓄えをしたかったこと。神戸は空港が近くでアクセスがよかったこと。これらの思惑が重なり、職場の理解も得られ、晴れて学会参加となった。当日までは、学会誌と協会誌の「学会だより」を読んで、心の準備を行った。

——金曜日

朝7:40発の神戸行きの便に搭乗。神戸空港到着後、モノレールに乗り、居眠りする間もなく9時には会場到着。神戸は近い。さて、学会にチェックインし、初日から歩く！歩く！歩く！まじめに1日聴講してまわる。協会誌の「学会だより」で予習しておいたランチ・カフェコーナーでパンを買って、つかの間の休憩をとる。歩きやすい靴と服装を着てきたことが正しい選択であった。1日が終わり、次の日の準備でもしようかと思った所、前職場でお世話になった大久保先生と出会う。それから電車で40分。行き先は、オリックスバッファローズのホームスタジアム。「OTは遊ばないとですねえ」と自分に言い聞かせる。ビール片手に野球観戦を満喫し、1日目終了。1日目感じたのは、多くの発表で、「活動と参加」のキーワードが頻繁に出てきたこと。整形外科の分野においても同様で、今後職場で作業療法を展開するためには、この流れに乗っておく必要があるけど、うちの職場で他職種に説明していくのも大変だろうなあ、などと考えた。もう一つは、全体的に報告内容の質が高く、強い研究デザインが多かったように感じたこと。臨床研究に挑むにしても研究法は確実にしておく必要があると感じた。

——土曜日

この日も会場を歩き回ったが、土曜日はやはり参加者が多い。人が溢れている会場もあった。特に聴講したいセッションでは、前のセッションから座席を確保する攻略法で挑む。さて、土曜日の話題

で特に気になったものは以下のものであった。まずは、「ADOCfor HAND」というiPad向けのアプリを開発したとの発表。患手の使用機会を増やしていく目的があるそうだが、イラストを選択し、療法士と患者で詳細に段階づけていくことが可能ようだ。次は、「リハ栄養」。演者の話が面白く、関西らしい笑いに溢れた講演であった。栄養状態のアセスメントを行った上でリハビリテーションを展開する必要性は昨今言われてきてはいるが、作業療法との関係を具体的な事例をふまえて話していただいた。最後は公開講座「地域包括ケアシステムとOTの役割」。地域包括ケアシステムの先進地域における、取り組みが紹介。OTの総合的な能力が試されているのかなあ、などと考えた。2日目終了。2日目の夜は、卒業校の同門会へ。卒業して10年以上経ち、場違いな所に来てしまった感もあったが、優秀な先輩・後輩に刺激を受ける。

——日曜日

朝早くからモーニングセミナー。参加者も多い。スペシャリストによるセミナーはすばらしい内容であったが、これを県学会でやったら学会参加者が増えるのではないかと想像する。淡野先生の災害支援の話を聴講した後、立ち読みで狙いを定めた書籍を大人買い。これも学会の楽しみ。作業療法の未来と展望のシンポジウムでは、若人たちの未来を切り開く力を感じる。最後は閉会式。3年以上にも及ぶ準備期間があったそうで、関係者の努力と割いた時間は多大なものであっただろう。長崎開催の第42回学会を思い出し感じるものがあった。これから日々の積み重ねを大事にしながら、学会運営をお手伝いするための準備をしようと考えた。

——皆様へ

次は札幌で学会が9月に開催されるそうです。9月の札幌は、まだ旅行シーズンです。週末はホテルや飛行機が混んで



いますので、早めの計画をおすすめします。また、発表して参加するのがベストですが、発表予定がなければ、私のような発表無しの参加もおすすめです。聴講に没頭することができますし、自分と職場の境遇が近い発表者と情報交換も可能です。そして、このような大イベントでは、近い将来の動向が肌で感じられます。最後に印象に残ったりハ栄養の若林Drのメッセージを紹介します。「作業療法士は引きこもったらダメです」「作業療法士なら学会に来たら遊びなさい」「作業療法士は感性を磨きなさい」「抄録提出と同時に論文を書きなさい」「発表しないなら、せめて質問しなさい」

だれか一緒に札幌に行きますか？ゴルフバック持って。

第49回 日本作業療法学会に参加して

長崎リハビリテーション学院
白岩 圭悟

今年の学会テーマは『温故知新～五十路を還り、未来を展ぶ～』で、意味は、昔の物事を研究し吟味してそこから新しい知識や見解を得ることだそうです。昨年の第16回 WFOT連盟大会のテーマも、『伝統を分ち、未来を創る』であったことからすると、先達から学ぶということこそが、作業療法が問われているこの今の時代に、私たちに必要な基本的な姿勢ということなのでしょう。

今回の学会で最も印象に残っているのは初代会長の鈴木明子先生と直接話することができたことです。日本における作業療法士の第1号である鈴木先生は、コロンビア大学医学部を卒業され、ボストン大学大学院にて修士号、ウェイン大学大学院にて博士号を取得されています。そしてあのフィドラーの愛弟子でもあります。私は常々、作業療法はひとがひとに関わるという関係性が基本にあると考えています。だから、「Occupational Therapy -a communication process in psychiatry-」としたフィドラーに関心があり、フィドラーのことについて鈴木先生に話を聞きたいと思っていました。そして、縁あって後日私は鈴木先生のご自宅に伺うことにもなりました。「教育とは何か」「作業療法とは何か」「歴史とは」

「人間とは」「日本人とは」「科学とは」「学問することとは」……。尽きない話題のおかげで、6時間という長時間、鈴木先生のお話を聞くことができました。

今、作業療法は様々な分野から問われています。それは世界的なレベルであり、インパクトファクターの高い一流の海外誌において、公然と作業療法の効果の低さが述べられている論文もあります。それは数値化や平均化という課題と直面した時に、作業療法の効果は示しにくくなるからだとは思っていますが、その点に対して鈴木先生は「人間はみな別個の存在である。それを一律に同じ方法で何事も処するようにすること、その一律とは何かを求めて、作業療法の理論家や平均化を図ることにそもそも無理がある。」とされています。



作業療法の歴史では、「科学」のない古代ギリシャ時代から作業療法は存在しているといわれています。それは、ある意味で科学的と呼ばれる道筋、理論、数字、パターン化だけで作業療法は成り立っていないということなのでしょうし、そこに作業療法の深みがあるとも思います。心身機能、活動、参加、環境因子、個人因子という、個人の様々な点をアセスメントし、作業を選択し、場を設定し、実行するという過程をとる以上作業療法は科学的といえると思います。ある診断名や障害名にたったひとつのことしか行わないとしたら、それこそが科学的ではないといえるのではないかな。そういうことを考えながら、それでも数値化を求められるのであれば、数で示していくしかないという覚悟のようなものを個人的に感じています。

学会は出会いの場でもあります。鈴木先生だけでなく多くの先生方と交流を持ち、「出会いを通して学ぶ」という学会に参加する意義を、改めて感じる事ができました。

軟式野球チーム“長崎 OT9ers”

三原台病院 中村 雄太・松本 康宏

今年も開催されたホームランカップに、「長崎OT9ers」も参加してきました。初戦は、昨年度どこかしの大会でのブロック優勝を果たした強豪との対戦となり、見るからに若く強そうなチームで、我が軍は試合前から完全に飲み込まれました。序盤は、まさかの先制点を挙げ、完全にイける感が漂いましたが、喜びもつかの間、相手の強力打線につかまり一気にたたみかけられました。気付けば、3回裏の時点で8-1。ベンチも冷めかえり、体も冷え切り序盤の、イける感は完全に消えていました。しかし、その後はわりと接戦を演じ、10-2で試合終了となりましたが、勝手に接戦の気分で、「長崎OT9ers」は気持ちよく今シーズンを終えました。シーズン開幕から3日で、すぐ閉幕。

はじめは、ベテランの先生方に気を使っていたのですが、最後は年齢関係なくみんな和気藹々と、短い夏を楽しむ事が出来ました。

普段は勉強会などでしか顔を合わせることがなく、身近に話す機会もないですが、野球を通して、別の形での良い交流の機会となりました。

毎年この時期には出場していますので、みなさんも男女経験者問わず、歓迎しておりますので、興味のある方はご一報ください。

【出場者氏名】

長崎大学：田中 浩二

長崎大学病院：大久保篤史

長崎記念病院：中村 和也・三宅 陽平・平本 陽一・高木 魁

三原台病院：大曾 史朗・中村 雄太・松本 康宏・森内 剛史
磯 直樹

長崎原爆病院：沓崎尾優太

菅整形外科病院：中山 浩介



応援の方と一緒に記念撮影



平成27年度 新入会者 紹介

新人オリエンテーションに参加された
新入会員の紹介です。

〈氏 名〉

- ①所属施設
②出身校
③抱負

〈川口ひかり〉

- ①長崎リハビリテーション病院
②長崎医療技術専門学校
③向上心を持って取り組みます。

〈岩永 雅美〉

- ①姉川病院
②長崎リハビリテーション学院
③患者さんの役に立つOTをする。

〈大塚 麻美〉

- ①わかばテラス デイサービス
風祭り
②長崎リハビリテーション学院
③がんばりマッスル!!!



〈大迫 健〉

- ①なごみの杜
②長崎大学
③OTと社会のパイプラインとなる。

〈手塚 彩加〉

- ①長崎北病院
②国際医療福祉大学
③患者様の笑顔を毎日引き出し、寄りそえるOTになりたいです。

〈石田 揚二〉

- ①済生会長崎病院
②長崎医療技術専門学校
③回復期病院へつなげるためのリハビリのスタートを、よりいっそう学んでいきたいと思います。

〈坂井 遥〉

- ①和仁会病院
②長崎医療技術専門学校
③笑顔で患者さんと接していきたいです。

〈櫻井祐太郎〉

- ①佐世保中央病院
②長崎リハビリテーション学院
③常に対象者の幸せを考えた作業療法を提供できるセラピストになること。

〈本多 秀平〉

- ①昭和会病院
②長崎医療技術専門学校
③患者さんのためになる治療ができるよう頑張ります。

〈藤本 真人〉

- ①長崎リハビリテーション病院
②長崎リハビリテーション学院
③自ら作業療法を学んでいきたい。

〈宮原 佑奈〉

- ①三原台病院
②長崎大学
③患者様の個性を大切にしたい作業療法をしていきたいと思えます。

〈桐谷 寿季〉

- ①長崎県対馬病院
②長崎医療技術専門学校
③誠実な気持ちで作業療法と向き合う。

〈山西 晃輔〉

- ①佐世保記念病院
②国際医療福祉大学
③長崎県の皆様に貢献できるよう頑張りたいと思えます。

〈寺中香奈子〉

- ①長与病院
②長崎医療技術専門学校
③患者様としっかり向き合っていきたいです。

〈加藤友里夏〉

- ①長崎労災病院
②九州栄養福祉大学
③患者さんの生活を支えるOTを提供する。

〈溝田 一成〉

- ①泉川病院
②長崎リハビリテーション学院
③がんばります。

〈林 和輝〉

- ①長崎百合野病院
②長崎医療技術専門学校
③少しでも立派な作業療法士になれるよう努力していきたいです。

〈市田 詩織〉

- ①長崎記念病院
②長崎医療技術専門学校
③頑張ります!!!

〈田代 千奈〉

- ①耀光リハビリテーション病院
②麻生リハビリテーション大学校
③笑顔を忘れずに患者さんと関わり、元気よく毎日頑張っていきたいです。



〈長瀬麻由子〉

- ①耀光リハビリテーション病院
②熊本保健科学大学
③患者様の生活を考え、その方らしい生活をサポートできるように頑張りたいです。

〈相川 拓也〉

- ①柴田長庚堂病院
②長崎医療技術専門学校
③患者様の生活を考えられるOTになります。

〈中村 恭平〉

- ①愛野記念病院
②長崎医療技術専門学校
③多くの患者様をしっかり治療していきたいです。

〈下田莉華子〉

- ①長崎リハビリテーション病院
②国際医療福祉大学
③患者さまに寄り添えるOTになりたいです。

〈田中雄二郎〉

- ①清和福祉会 ゆたか荘
②長崎リハビリテーション学院
③がんばります。

〈早坂 昇平〉

- ①あきやま病院
②長崎リハビリテーション学院
③精一杯がんばります。

〈森内 麻未〉

- ①長崎百合野病院
②長崎医療技術専門学校
③探究心を忘れない

〈永田 莉奈〉

- ①耀光リハビリテーション病院
②長崎医療技術専門学校
③患者様第一に考えられるように頑張ります。

〈池田ゆり野〉

- ①耀光リハビリテーション病院
②神村学園専修学校
③笑顔いっぱい、新人らしく一生懸命頑張ります(^^)ノ

〈岡村 愛沙〉

- ①耀光リハビリテーション病院
②神村学園専修学校
③笑顔で頑張ります!

〈宮原 朋子〉

- ①長崎原爆病院
②長崎医療技術専門学校
③新人らしく、貪欲に吸収していきたいです。

〈竹口 彩恵〉

- ①安永脳神経外科
②長崎医療技術専門学校
③多くのことを吸収して、対象者の治療が行えるよう勉強していきたいです。



〈嵩下 将輝〉

- ①日見中央病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③頑張ります。

〈本田 有緯〉

- ①三原台病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③何事にも直向きに取り組む

〈佐藤 万紀〉

- ①長崎北病院
- ②九州中央リハビリテーション学院
- ③自己研鑽に励み、人に寄り添うOTになります。

〈峯 信一郎〉

- ①杠葉病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③頑張ります。

〈吉田 将人〉

- ①公立新小浜病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③一生懸命頑張ります。

〈山口 亮太〉

- ①市立大村市民病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③患者様のニーズにこたえ、よりよいリハビリテーションを提供できるように頑張ります。

〈大江唯佳子〉

- ①長崎記念病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③まだまだ未熟ですが、患者様の笑顔になってもらうように頑張ります。

〈國分 亮吾〉

- ①介護老人保健施設 みどりの里
- ②長崎医療技術専門学校
- ③利用者の方の力になれるよう頑張ります。



〈山邊 智子〉

- ①高城病院
- ②柳川リハビリテーション学院
- ③患者様の笑顔を自然に引き出せるようなOTになりたいと思います。

〈松永 かおり〉

- ①耀光リハビリテーション病院
- ②長崎リハビリテーション学院
- ③患者様を第一に考えられるセラピストになれるよう頑張ります!!

〈梅田 莉子〉

- ①佐世保中央病院
- ②長崎リハビリテーション学院
- ③自分に自信を持ってリハビリを行えるように毎日頑張ります。

〈渡辺 貴大〉

- ①貴田神経内科
- ②西九州大学
- ③一生懸命頑張ります!!

〈岡村 保孝〉

- ①西脇病院
- ②西九州大学
- ③無理をせず頑張る

〈椎山 賢汰〉

- ①南長崎クリニック
- ②長崎医療技術専門学校
- ③一生懸命がんばります。

〈本多 祐基〉

- ①市立大村市民病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③作業療法士となりこれから様々な患者様に信頼されるセラピストを目指して頑張りたいです。

〈山口 小春〉

- ①長崎北病院
- ②長崎大学
- ③早く一人前になる

〈佐藤 充〉

- ①口之津病院
- ②九州保健福祉大学
- ③がむしゃらにがんばります。

〈谷口 友仁〉

- ①菅整形外科病院
- ②長崎リハビリテーション学院
- ③4年目ですが、新人さんに負けないようにがんばります。

〈諸橋 美紀〉

- ①耀光リハビリテーション病院
- ②鹿児島大学
- ③知識をしっかりと吸収していきたいと思います。

〈勝元笑利奈〉

- ①西海病院
- ②医療福祉専門学校緑生館
- ③先輩方の姿勢を吸収しながら患者さんの第一を考えた自分のやりたいOTとは何かを考えて実行していきたい。

〈池田 龍広〉

- ①長崎記念病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③患者様のQOLの向上を目指して頑張ります。

〈中尾 孝平〉

- ①元亀の里
- ②柳川リハビリテーション学院
- ③利用者を元気にするリハを行う!!

〈菅崎 流理〉

- ①西海病院
- ②長崎大学
- ③・はやく仕事を覚える
・知識をつける

〈古賀まなみ〉

- ①長崎北病院
- ②長崎大学
- ③早く一人前になる

〈松田 彩〉

- ①耀光リハビリテーション病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③新人の1年間で大きく成長する。

〈福重 森羅〉

- ①耀光リハビリテーション病院
- ②茨城県立医療大学
- ③いつでも前向きに頑張ります!!

〈松川 佳未〉

- ①昭和会病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③患者様に笑顔になってもらえる様に、患者様に信頼されるセラピストになれる様頑張ります。

〈浦 紀子〉

- ①長崎記念病院
- ②長崎医療技術専門学校
- ③良きOTになりたいです。

〈岩永 裕人〉

- ①三河内病院
- ②長崎大学
- ③子供からお年寄りまで幅広い年齢層の方から愛されるOTを目指します。

〈大谷 幸己〉

- ①長崎みなとメディカルセンター市民病院
- ②長崎大学
- ③まだまだ未熟ですが、日々誠心誠意で患者様と向き合い、一人前のOTになりたいです。

〈山口 良太〉

- ①長崎大学病院
- ②長崎大学
- ③つらくても笑顔で頑張る

〈梶原 由里〉

- ①三河内病院
- ②長崎大学
- ③ひとりひとりの患者様を大切にしていきたいです!!

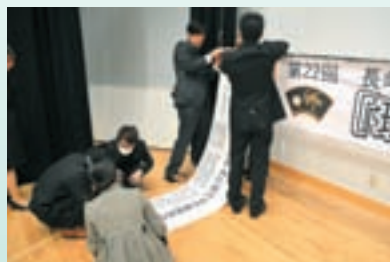
〈出口夏代子〉

- ①長崎原爆病院
- ②県立広島大学
- ③たくさん学んでいきたいと思っています。



Photographs

第22回 県学会



県学会スタッフの皆様お疲れ様でした。今年度は県北地区開催です。

平成27年度 定期総会



会場の雰囲気は例年より緊張感を感じました。

編集後記

写真は、2015年度の広報局メンバーです。啓発活動担当の吉野部長とHP・Fネット担当の福島先生を加え、より強力になりました。よろしくお願いします。

「さいかい」は今回で98号を迎えることができました。これも会員の皆さまのご協力のおかげと考えております。私自身「さいかい」編集に携わって5年以上経ちます。東日本大震災での特集や県内各地の啓発活動をカメラと家族を連れて回って取材したことなどを思い出します。最近は編集に携わってくれるメンバーも増え、内容も充実してきたと感じています。ところで、今回、私自身も（じつは）初めて原稿を書いてみました。締め切りに追われる。下手なことを書けないから一生懸命になる。書いてみると意外に楽しい、といった書く側の大変さを理解しました。これまでは編集される側のことで手一杯でしたので、なにか新たな視点が手に入ったような気がします。ということで、「さいかい」に寄稿したことがない会員の皆さまに、是非寄稿をおすすめしたいと考えています。これからもどんどん声かけをしますので、ご協力をよろしくお願いします！（中山）

